

お客さまを訪ねて



掛川市 株式会社キャタラー アーク・クリエイション・センター

空気や水を浄化する新しい環境技術を開発し、四輪自動車や、バイクなど内燃機関からの排気を浄化する触媒を中心に、国内だけではなく世界中のお客さまに製品を提供している株式会社キャタラー。平成29年には創立50周年を迎えられました。

世界トップレベルの排出ガス浄化触媒技術でグローバルな事業活動を展開する株式会社キャタラー総務部の山本圭介部長と西倉圭一氏にお話を聞きました。

——会社の歴史は？

1967年袋井市に、排出ガス規制に対応するための会社を設立し、触媒の研究開発を始めました。71年に現在の掛川市に本社を移転、97年にはタイで生産を開始しました。その後南アフリカ共和国、アメリカ合衆国、中国、インドネシア、インドと生産拠点を増やし、2017年、累計触媒生産数量4億個を達成しました。近年では、自動車の動力エネルギーもガソリン・ディーゼルだけではなく、車載電池を使用したハイブリッドカー（HV）や、プラグインハイブリッドカー（PHV）なども登場しています。当社の電極触媒（発電機能を有するカーボン）は、世界初の量産型燃料電池自動車「MIRAI」（トヨタ自動車）にも採用されています。2017年11月には、さらなる技術躍進を目指し、研究開発拠点「アーク・クリエイション・センター」を磐田市に立ち上げました。当社の価値を世界中のお客さまにお届けし、Customer Delightを実現したいと思っています。

——GLOBAL VISION2025について

キャタラーが提供する新たな価値を世界へ発信し、Customer Delightをグローバルに実現していくため、私たちは「躍動」「躍進」「飛躍」をスローガンとした「VISION 2025」を2015年に策定しました。事業成長、ものづくり革新、プロアクティブアクション、社会貢献、そして人づくり。継続的な改善・変革のサイクルを通じて持続的成功を目指し、10年後の「ありたい姿・めざすべき姿」の実現に向け、チャレンジし続けます。スローガンに共通する「躍」という漢字がVISION2025の心躍るシンボルです。

——キャタラーはどう進化していきますか？

自動車は電動化の時代に入っていますが、内燃機関（エンジン）を持つ車の市場は、途上国などで2030年までは伸びが見込まれています。世界各国に

自動車やバイクに適用される排出ガス規制があり、環境保全や健康維持のため、規制値は年々厳しくなっています。それに合った自動車用排気浄化触媒を開発していく努力と、電動化への対応を進めていきます。

一方、排出ガス浄化触媒の需要が減少した時に備え、既存の触媒や、カーボンなどの基盤技術を活用できる分野で新規事業の開発にも力を入れたいと思います。

——地域との係りは？

2017年5月、掛川市と包括連携協定を締結しました。シティプロモーション、教育、環境保全、防災などこれまで以上に地域との連携を密にし、魅力あふれる地域づくり、活性化を推進しています。教育部門では、研究開発所属のスタッフが小学校に出向き「出前授業」を行ったり、天竜浜名湖線に乗りながら化学に触れることができるラッピング車両「キャタライナー」

を走らせるなど力をいれています。また防災では、津波対策として地域の方々の避難地の確保、防災林



キャタライナー Photo by 熊澤 昭一

の植樹ボランティア活動など、従業員の防災意識の向上も目指す活動もしています。そのほか、新茶マラソンや茶エンナーレのスポンサーなど、地域活性化や町おこしにつながるイベントは、積極的に応援させていただいています。

——広告はお役に立っていますか？



大型看板のデザインは、創立50周年の節目に合わせ、掛川市出身で“輝くかけがわ応

援大使”の漫画家大島司さんに当社の社員を描いてもらいました。背景は掛川城やお茶畑です。本社周辺の看板は会社の認知度アップのため、そしてアーク・クリエイション・センター周辺は道案内が主な目的です。「キャタラー好きか？」のキャッチコピーは、大島ファンをはじめ多くの方々からハッシュタグ付でSNSにも投稿されるようになりました。

